

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 170 号	2015年9月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—9月5日（土）参加したのは15名の会員と岡村会員の息子さんです。
作業はため池、湿地帯の法面および草原、観察路の除草をおこないました。なお当初予定していたイナゴの駆除は実施しませんでした。

最初に協議した内容は

- ① 市からの補助金の使い道、および立て替え払いの対応策
- ② イナゴの発生および影響について

—9月12日（土）親子自然観察隊は秋の昆虫観察でした。参加は、子8名と親7名、会員9名です。天気は曇りで時々雨もぱらつく良い状況ではありましたが、ビオトープから昭和山入口まで往復していろいろな昆虫を捕まえました。東屋に帰って捕まえた昆虫の名前を確認し逃がしてやりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

- 10月10日（土）稲作体験・稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会招聘）
- 10月24日（土）維持活動、草刈り

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【 】（記）

今月はありません。

5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫」(管 哲郎 記)

昨日の晴天はなくなり、今日は一転曇り空で、チョウやトンボの出現は今一つでしたが、子供たちの頑張りににより、チョウ、トンボのほか、バッタ、キリギリス、イナゴ、クワガタムシ、カミキリムシ、カマキリなど、まずまずの成果を残せました。中でも“クロコノマチョウ”の♂♀と幼虫や羽化殻も採集され、幼虫の姿が珍しく盛んにシャッターが押されました。また、幸運にも大型の“シロスジカミキリ”2♀がほとんど死にかけた状態で発見され、驚きました。採集された昆虫は以下の通りです。

トンボ類 ベニイトトンボ、クロイトトンボ、モノサシトンボ、ハグロトンボ、ゲンバイトンボ、ショウジョウトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ。

チョウ類 ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、ヒメキマダラセセリ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、クロコノマチョウ(幼虫、羽化殻)、

バッタ、キリギリス類 ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、ハネナガイナゴ、キリギリス、ツユムシ、オナガササキリ、エンマコオロギ。

カマキリ類 オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリ。

甲虫類 ヒラタクワガタ、スジクワガタ、コアオハナムグリ、シロスジカミキリ。

その他 ウスバカゲロウの幼虫(アリジゴク)、ヤマトシリアゲムシ。



林の中で観察



休耕田で観察



捕まえた昆虫をカゴへ



昆虫の名前の確認

親子自然観察隊の親子の感想

★野田寿恵(母) 「秋の虫の観察に参加して」

息子に虫の名前を覚えてもらうことが沢山あり、小さい頃図鑑をよく見ていたからかあ…

って感心した日でした。ありじこく、シャクトリムシ、等見たことも無い虫でした。六年生の息子と歩き、ゆったりと話を聞いてあげれ、息子の事を見直せました（笑）

★野田 怜

用事があって、遅く到着しました。みんなは探検に出掛けてた。親切に工藤さんが案内してくれました。ありがとうございました。ありじこくを家に持って帰りました。水槽の中にいるけど、まだ作ってないです。怜

★永富花音

虫を捕まえるのが楽しかったです。トンボはすばしっこくややこしかったです。蟻地獄を初めて見ました。体が柔らかに不思議でした。

★永富利津子（母）

娘は昆虫に興味津々。目を輝かせ、虫を追いかけて林や川の中にまでも突っ込んで行く勢いでした。

楽しい学びの機会を有難うございました。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」（管 哲郎 記）

(33) ハネビロエゾトンボ *Somatochlora ciavata*

エゾトンボ科 Corduliidae

エゾトンボのそっくりサン！見かけだけでは判定の難しい種です。皆さんには殆どなじみのないトンボで、生息数も少なくなかなかお目にかかれない希少種です。やはり寒冷地型のトンボで、全国的にも多くない種となっています。筆者も10年以上前に宇部市内でかろうじて撮影できましたが現在では姿を見ることができません。新しい産地を開拓しなければなりません。県北部（山口市阿東、萩市）に可能性は高いと思われますが、遠いので調査は難しいです。

成虫は7月～9月ごろに見られます、丘陵地や低山地の湿地を流れる細流が幼虫の生息地です、そういう場所を探し根気よくトンボの現れるのを待たねばなりません。近頃は休耕田や放棄田が目立ち、田畑や山林の林縁部が荒れ果て、生息環境の悪化が著しく、本種の搜索も困難になりました。しかし根気よく探せば宇部市内でも見つかるかもしれません。



ハネビロエゾトンボ ♂



ハネビロエゾトンボ ♀

7. 会よりの連絡事項

1. イナゴの大量発生への恐れありー2。

先月イナゴについて如何にしたら最小限の被害で済むか問い合わせ協議をしましたところ

① 時期的に幼穂形成期にあり、人海戦術での田圃に入っての捕獲は困難

② 無農薬をモットーとしており農薬での殺虫はしない

③ 収穫量は少なくなってもこれはこれで良い経験であり、このまま放置する

以上の意見がありそのまま指をくわえて見守ることになりました。

8. 編集後記

「秋の昆虫」をテーマに9月の観察隊を実施しました。管隊長が完全復帰して、子どもたちが捕獲した虫を同定しておられる様子にほっとしました。

好奇心いっぱいの子どもの質問があつちからもこつちからも飛び交う中、管隊長と松原さんが優しい表情で丁寧に答えておられました。

子どもの前では不思議とみな、表情が柔らかくなるものですね。

さて、ひと通り同定が終わった後、管隊長は三角のパラフィン紙を取り出し、そこから丁寧に処理された虫をピンセットでつまみ出し、子どもたちに説明を始めました。「虫の標本」なんて、何と久しぶりに見たことか…とても懐かしい気持ちになり、昔を思い出しました。我が子が小学生だった頃、昆虫教室に通い、虫の標本作りを学んだことがあったのです。

今の子どもたちは夏休みの宿題で「虫の標本」を出したりするのでしょうか。そばにいたお母さんにきいてみたところ、「いや～全然見ませんよ。(この目の前の光景は)まるでファール昆虫記の世界ですね」と言っておられました。まず、日常の遊びのなかに虫や花が存在しないので、関心を示す子どもが少ないのは当然なのでしょうね。そう思うと、ここビオトープに足を運び、虫の観察をする子どもたちはなんと貴重な存在だろうとあらためて感じます。そして、一緒に時間をつくって参加されるお母さんもすばらしいと思います。

観察隊も残り少なくなりましたが、残りの企画もしっかり楽しんでいただきたいと思います。

(中本 亜矢子 記)